

十四代仲哀帝御宇大坑靈化蒙古屢輸方鼓來元塔為流文仲哀前奉長岡國靈
浦借愈也やいふるいふやうに附會の説を聞ゆれども能葉の先も異國の
者多し故におのづからいふ説はあつるを以て三月皇后神教の如く御
師とあり。襄國及凶賊能營等と撃つ斬り九州大子定むるに於て十日皇
后をいづつ諸軍と將て新羅を征討し新羅王降る高麗百濟も亦來降る
三韓悉く服し。

此事は國人にいつて記さるるやその正當は元々の國の書に
えはたつ三國史記に新羅即貢王三年夏六月倭人將至國塗城王親出戰
わつたることも明貴三年ハ皇后の親征より三十二年あつた。但し三
國史記等はあつた所其年代あつたの事紀はたつた。神功皇后紀に

遂入其國中封置寶府庫收蓄籍書也あつた。古書の傳をハ失入つた
つたあつた。

皇后秘政三十三條。襲入新羅とつた道に於て。

三國史記に曰く。新羅助貢王四年五月倭人新羅東邊。秋七月倭人
倭人戰沙道。

同三十八條。景初二年六月倭女王遣大夫難升米等詣即下詣天子朝獻

魏志に曰く。景初二年六月倭女王遣大夫難升米等詣即下詣天子朝獻
大守劉夏遣使將送詣京都其年十二月詔書報倭女王曰。前詔親魏倭王
賜乎。帝方太守劉夏遣使送汝大夫難升米。次使都市牛和奉汝所獻男生口
四人。女生口六人。班布二匹二丈。以到汝所。在踰遠。乃遣使。夏夏之使奉。

檀觀城柵。皆侍兵守衛をいつつと思ふ。大隅薩摩のちのち。其
家其城等此遺蹟あり。古事記傳に。薩摩國人の説。可身山陵ハ
薩摩國高城郡。水引郷立臺村。中山の巔よりやつんと引ぬ。論中
子。又高城郡ハ。額埴郡を併せて。此御陵の地。古ハ額埴郡なりし。今高
城郡ヲ屬する也。若此ニ郡相接ぐ。誰なる地歟。をよハ。此中山の
陵もハ不疑耶。きよし。今輿地路程全國及ハ輿地便覽中
檢する。高城郡ハ。薩摩北極北。出水郡中接して。大隅ある。昔於郡ハ
近ク。額埴郡ハ。極南ニ在テ。其間數郡隔たり。ふりれハ。此中山陵と
ハ。梓尊此陵とす。信ハ。其後。額埴ニ志如。壇城。周圍。以
屏也。修之。其石最大。如必謂。片石非神功。不能。轉山上。や。志
大作家。徑百餘步。や。似。其左小川合陵と云。其右小
端陵と云。や。り。の殉葬者奴婢百餘人の冢。人々之
う。ま。その陵の右ハ新田宮や。壇々梓尊と祀る。此廟域ハ即
壇々梓尊此宮城の墟なり。廟の背と城村と云。屏障と前成たるハ似た
也。是宮城の趾歟。や。傳牙たり。マ。神世の旧蹟。ハ。城村
あり。名々。似。後漢書ハ。居處宮室
構觀城柵の方ハ。高城郡や。名けた。此城より出。名
や。考。又。梅子天祖の山陵と。天書ハ。蘇我
日向。嶽之中山之巔也。今此陵の所と中山と。天祖
の山陵と。疑。天書ハ。薩摩人の書たり。天書ハ。吉書の

大作家。徑百餘步。や。似。其左小川合陵と云。其右小
端陵と云。や。り。の殉葬者奴婢百餘人の冢。人々之
う。ま。その陵の右ハ新田宮や。壇々梓尊と祀る。此廟域ハ即
壇々梓尊此宮城の墟なり。廟の背と城村と云。屏障と前成たるハ似た
也。是宮城の趾歟。や。傳牙たり。マ。神世の旧蹟。ハ。城村
あり。名々。似。後漢書ハ。居處宮室
構觀城柵の方ハ。高城郡や。名けた。此城より出。名
や。考。又。梅子天祖の山陵と。天書ハ。蘇我
日向。嶽之中山之巔也。今此陵の所と中山と。天祖
の山陵と。疑。天書ハ。薩摩人の書たり。天書ハ。吉書の

傳すて書くあるをいれ、中山とて削るし。

同六十六年使をつりて晋のゆすむ。

晋書に曰く、恭始初、遣使重譯入貢。

應神天皇十八年夏四月、其人新羅の一禮部を襲ふ。

三國史記に曰く、儒礼四年、倭人襲一禮部、縱火燒之、虜人千餘去。

二十三年、もろ新羅とせめて、沙道城を陷す。

三國史記に曰く、儒礼九年夏六月、倭兵攻陷沙道城、命一寺食大谷、鎮其城。

元之云。

二十五年夏、もろ新羅の長率城とせむ。

二十六年、新羅も倭人のとりて其城を犯すとす、もろ倭を謀てその國と

争むや、其臣のいさめよとるべし。つひよえとるべし。

三國史記に曰く、新羅儒礼十三年春、王謂臣下曰、倭人屢犯我城邑、百姓不

得安居、吾欲與百濟謀、一時送海入擊其國、如何、舒弗耶弘權對曰、吾人不忍

水戰、且陰遣使、恐有不測之危、況百濟多詐、常有吞滅我國之心、亦不忍與

一謀、王曰、善、かもし倭人の韓を犯す、あか襲人、か限るをく、九

州地方各國の王等、此をさるるもあつて、後世いとの、倭をさるる

の。朝廷に、曾てさるし、あつて、りし、か、如きの。

三十一條、新羅襲國や、た、鴨也。

三國史記に曰く、新羅奉陪三年春正月、與倭國交聘。

帝崩御二年、晋永嘉六年、倭國始と新羅す、し、む。

三國史記曰く新羅訖羅三年春三月。倭遣使請婚。不許。羅以阿波利也。
送之。東國通鑑曰く。倭國遣使于宋婚す。

仁德天皇三十二年。倭人使と新羅つりりて婚せむ。

布衣通鑑曰く。訖解三十五年春二月。倭遣使新羅請婚。不報。三國史記
いづく。羅訖羅出嫁す。

三十三年。倭人書と新羅移して文と絶つ。

東國通鑑曰く。訖解三十六年二月。倭使書新羅絶交。三國史記同じ。倭人
えれみよよく漢文と介る。るる下の上表と入念を盡し。

三十四年。その人新羅とせめて金城と圍む。

東國通鑑曰く。訖解三十七年九月。倭寇新羅。圍金城。王欲出兵。盡

云し。

八十二年。百濟使と新羅遣りて大珠とせむ。

三國史記曰く。百濟辰斯十一年五月。遣使倭國。大珠。十二年春二月。倭

國使者至。王迎之。持厚。おもふ。當時百濟の朝廷の内。百濟を

る。あはしやともふ。大珠と求む。り。倭國に

て白珠青大白珠を贈る。る。る。に。る。る。る。

履中天皇六年四月。その人新羅の明活城とせむ。

三國史記いづく。新羅高麗四年夏四月。倭兵來攻明活城。不克而歸す。

元恭天皇十年。その王讚使とけりりて宋にゆきむ。

宋書曰く。高祖永初二年詔曰。倭讚高麗使。誠宜。我。可。賜。降。授。宋書十

讚と贊と作ふ。曰く、晋武帝時有侍王贊、贊死立弟稱、稱死立子濟、濟死立子
與、與死立弟武、武建元中除武、武稱と下ナ引く、侍武王上表ナ稱
ナ作る、宋書ナハ珍と作る、稱も稱も、並ナ珍の誤ちる、是レ孫林珍字彬の
似るもの、誤り、あつて、與も宋書ナ興とあり、是る、也。

二十四年讚より司馬書進と宋みつりて、方物と獻せ。

宋書ナ曰く、大祖元嘉十年、讚又遣司馬書進、奉表獻方物。

讚死して弟珍たつ、いそしく、猛る、し、とすえて、六國諸軍事と都督ひ、
おもむき、安東大將軍侍國王と稱ん。

宋書ナ曰く、讚死、弟珍立、遣使獻、自稱、使持節都督、侍百濟、新羅、秦、韓

六國諸軍事、安東大將軍侍國王、表、奉、除、正、高、除、安東將軍侍國王、珍又、奉、除

正、倭、泊、等、十三人、平西征、虜、寇、軍、輔、國、將軍、並、詔、並、聽、八、階、急、置、訓、子、夜、旦、國
隣、大王、と、あ、ハ、陳、大王、の、誤、字、佐、記、説、子、陳、大王、ナ、作、る、これ、珍、と、ウ、ヤ、ア
の、の、ろ、ろ、ナ、此、封、と、受、て、す、ハ、あ、れ、る、漢、川、の、り、の、故、ナ、秦、且、人、と、思、ハ
ま、く、傳、ハ、誤、マ、リ、シ、ム、ナ、も、あ、る、也、く、も、入、る、下、の、武、王、ハ、上、表、ナ、昔、祖
躬、撰、甲、冑、ナ、い、と、あ、る、ナ、之、も、珍、ハ、義、國、中、興、の、祖、ナ、あ、る、也、高、ナ、ア、リ、と、知
ら、し、め、る、。

二十一年其兵新羅の明活城と圍む。

三國史記ナ曰く、新羅訥祚十五年夏四月、侍兵來侵、東、邊、圍、明、活、城、

三十年より新羅と侵む。

同書ナハ、訥祚二十四年、侍人侵南邊、掠取生口、而去、夏六月、又侵東邊、

珍弄て子洛たつ。三十二年。王洛使と宋子つゝいそ宋主以て安東將軍倭國
手引。

宋書曰く。元嘉三十年。倭國王洛遣使奉獻。後以爲守東將軍倭國王。
三十三年。宋人新羅比金城とくあむ。

東國通鑑曰く。新羅訖祇二十八年夏四月。倭寇新羅圍金城十日糧盡乃
歸。

四十年。宋主洛王。使持節都督六國諸軍事とりの。

宋書曰く。元嘉二十八年。加使持節都督倭新羅任那加羅奈韓羅六
國諸軍事。安東將軍加敷。特除所上二十三人軍郡。あつた宋主とくは
そのおびる所とゆふ。さうよめてゆ。さうとくれは。新羅の勢。

つよが

同天皇の御世。額田部湯坐連と遣りて。襲人を討つた。

いしゆ。倭王珍とりのよ。さそ無礼る。をむ元恭天皇これと征免
ゆ。その新羅姓氏族十。左京神別下。額田部湯坐連。天津彦根命子。明立天
御命。命之後也。元恭天皇御世。被遣薩摩國平草人。復奏之日。歎御馬。一正額
石可形。四毛。天皇喜と賜姓額田部也。

雄略天皇三年。その人兵船百餘艘とめて新羅と襲ひ。直て月城と圍む。

東國通鑑曰く。新羅慈悲二年夏五月。倭以兵船百餘艘。新羅東邊
圍月城。四面矢石如雨。王固守。賊將退出。兵擊之。賊溺死者過半。

洛王死して世子興立つ。使と宋子つゝいそ。

宋書云いづく。洛死。世子興遣存宣獻世祖大明六年。詔曰。倭王世子興。卷載忠作藩外海。葉化寧境。恭修貢賦。新討遠蠻。授爵。可安東將軍。傳回王。同一。天監七年。乃兵新在。此。京城。と侵す。

東國通鑑云いづく。新羅慈悲六年春二月。倭使新羅。欲京城。不克而去。二十年。新羅使東。倭と侵す。

曰書云。慈悲十九年夏六月。倭人侵東。倭。

興死。一。年。武。三。つ。使持節都督倭百濟新羅任那加羅奈韓慕韓七國諸軍事。東大將軍。傳回王。と稱す。

宋書云曰く興死。弟武立。自称云云。

同一。天監廿二年。武王使と云。上表していづく。封國。倭。遠作。

藩。子。外。自。昔。祖。禪。躬。親。授。甲。冑。致。涉。山。川。不。遠。卒。歲。東。益。毛。人。五。十。五。國。西。服。表。夷。六。

十六國。渡。平。海。北。九。十。五。國。毛。人。五。十。五。國。倭。與。出。羽。飯。夷。の。事。表。六。十。六。

海。北。九。十。五。國。の。葉。國。より。北。る。の。國。の。王。道。詔。奉。獻。土。貢。幾。葉。朝。言。不。

從。手。歲。臣。雖。下。受。不。胤。先。緒。聖。皇。所。統。歸。崇。天。極。道。遠。百。海。笑。治。船。航。而。句。驛。無。還。

圖。欲。見。容。掠。抄。遠。親。度。割。不。已。每。致。抵。滯。以。失。良。風。難。自。進。路。或。逼。或。不。臣。國。下。

宋。千。通。云。の。た。い。船。と。三。韓。十。葉。の。事。る。に。百。海。新。羅。任。那。の。役。以。易。と。い。く。

と。高。麗。の。と。り。自。立。一。て。衆。人。の。手。に。及。び。棄。き。却。す。た。れ。六。國。諸。軍。事。

諸。軍。事。と。都。督。さ。る。る。と。い。言。は。る。る。と。い。言。は。る。る。と。考。清。武。の。興。の。事。を。い。て。實。を。い。て。

能。登。三。天。路。控。敵。百。萬。義。聲。感。激。方。欲。大。舉。吞。我。父。兄。使。垂。成。之。功。不。獲。一。貴。居。在。

諒。聞。不。勤。兵。甲。是。以。偃。息。未。捷。至。今。欲。練。甲。兵。中。父。兄。之。志。義。士。虎。賁。又。武。效。功。

白。又。又。前。亦。所。不。顧。若。以。帝。使。覆。載。推。此。遠。敵。先。靖。方。難。無。替。前。功。躬。自。假。開。府。會。

同三司其餘成授以勅志節

新日本紀開題小南史と引て曰く順帝昇明二年倭王武遣使言自昔祖祚躬授甲冑跋涉山川不遠遠處來征我人五十五國而版表表六十六國凌平海北九十五國太平御覽七百八十二四夷部四〇九十一二子の異同ありんつれは是るんがものゝ襲人上表のの報志よりたて見えて是より神功皇后攝政四十年と當り其上也より漢の文章とやうあらうしや明ありあつれやも其文章八倍りくは文章の後世も傳りけるは武王の表あり我朝はと傳やて外と奉り意最也と云やういふも當時今此九州の地よりする文章より其考證も備めたりたり此文章より太子此還法の文より先だつもの実より百二十八年をりし奇や謂ふし

柳菴隨筆小のこれと云はるは漢法の文と本朝より漢文の最も多る所のものとせん

東主するうち武王と使節都督倭新羅任那加羅等韓六國諸軍事東大將軍倭王と除也

宋書小曰く順帝昇明二年遣使上表曰云云新羅武王

二十三年齊主武王と遣使て鎮東大將軍と號也

南齊書小曰く建元二年進新除云々六國諸軍事東大將軍倭王武遣使

東大將軍

清寧天皇四年秋八月その人内附也

清寧天皇元年といふは四年秋八月丁未是日蝦夷倭人並内附とのみ事人ヤといふの事もまた古代庶襲の事賊やといふ事